

二〇二二年度 大妻中野中学校 第一回 海外帰国生入試

十一月六日 問題用紙

国語

受 験 番 号	
番	
氏 名	

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて7ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認して下さい。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに受験番号と氏名を記入してください。
受験番号は算用数字で記入してください。
- (四) 試験時間は五十分です。
- (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

□ 次の文章をよく読んで、あとの設問に答えなさい。

読書は大切だ。より多くの本を、より速く、よりの確に読み進んでゆくことは決定的に大切だ。何のために？ もちろんこの世界をより深く理解するためにである。自分がここにこのようにしてあるという事実を、より深く納得したうえで死んでゆくためにだ。(中略)

十代の読書の*₁要諦は*₂暗誦^{あんしゅう}にあり、それに値^{あた}する書物を見いだすことにある。むろん、子供に判断できるわけがない。大人にだって怪しいものだ。幸い古典というものがある。思い出して役立つ確率がもつとも高いものが古典である。これは自国語にしても外国語にしても同じことだ。暗誦して役立つ詩や文章は外国語にだってたくさんある。

十代の読書の基本が暗誦にあるとすれば、二十代の読書の基本は競争にある。

十代も後半になると読書の方法が変わってくる。多読、乱読である。そして、多読を支えるための速読。これを競争の読書というのは、より多くの本を読んで、友人知人と競いあうからである。文庫でも全集でもいい。解説目録や全巻一覧を広げて読み終えた本に印をつけ、何ごとか達成した気分になるのがこの頃だ。できるだけ多くの本をできるだけ速く読むこと。ざっと目を通して大意をつかむだけでも読まないよりはましだ。そういう読み方である。

二十代も後半になると、しかしまた違ってくる。同じ競争でも、読み方を競うことになる。味読、熟読といってもいい。三十代の読書の基本がこれだ。むろん、人によつては十代、二十代の頃から味読熟読を*₃もつぱらにするものもあるだろう。だが、多読乱読を経過しない味読熟読は意味がない。*₄領域^{りょういき}を限ることは解釈の方法を限ることなのだ。たとえば一冊の小説は、歴史学の対象にも、心理学の対象にも、社会学の対象にも、経済学の対象にもなる。対象になることによつてさらに豊かになるのである。

人はなぜ書くのか、なぜなら読んだからだ、と述べたのは後藤明生^{ごとうめいせい}だが、多読乱読も、味読熟読も、書くという行為をとみなわずにはおかぬ。発表するしないはともかく、何かを読んだものはいずれ何かを書くことになる。そして、書きはじめるやいなや読み方もまた違ってくるのである。何かを書かなければならないと思つて読みはじめると、その本はそれまでとは違った輝きを見せてくる。その違った輝きは、以前に読んだ本の意味まで変えてしまう。再読三読しなければならぬ本が増えるわけだ。

十代に暗誦した書物が輝きを増してくるのがこの頃なのだ。四十代もなかばをこえたと記憶力が衰^{おとし}え、十代の柔らかなった脳に刻み込まれた文章だけが生き残つて鮮明に浮かび上がってくる。記憶に残るということとは、しかも何ごとかであるのだ。なぜその文章だけがはつきりと記憶に残っているのだろうかと問いかけてみるがいい。そこには必ず思いがけない自分の秘密^{ひそ}が潜^{ひそ}んでいるのである。こうして四十代、五十代の読書は、自身の過去を読みなおす行為と重なってくる。

年齢とともに読書の意味も変わってくる。生理の自然というべきだろう。多読乱読、味読熟読は、いまもたいていの人間が行なうことだ。だが、暗誦する読書は違う。いまやほとんど失われた伝統になつてしまった。

(三浦雅士「読書と年齢」『読書のたのしみ』岩波文庫編集部編、岩波書店より)

＊ 1 要諦：物事の最も大切なところ。

＊2 暗誦：暗記のこと。

＊3 もつぱら…他のことをさしおいて、それに集中するさま。

＊４ 領域…ある力、作用、規定などがおよぶ範囲。また、その物事、人がかかわりをもつ範囲。

筆者がこの文章で述べたいことを八十字以内で答えなさい。ただし、必ず「年齢」という言葉を使つて書くこと

*下書き用マス目

[illegible]

二 次の各問に答えなさい。

A 漢字に関する問題

①貧困、紛争、感染症、②キコウ変動、③シゲンの枯渴：

人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面している。このままでは、人類が安定してこの世界で④クらし続けることができなくなってしまうと言われている。そんな⑤危機感から、世界中の様々な立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てた。それが「持続可能な⑥カイハツ目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」である。

SDGsは、「持続可能な世界」を⑦ジツゲンするための、いわばナビのようなものである。人類はいま、そのナビが示す方向に進めているだろうか？
そして、君自身はどうだろうか？

様々な社会の課題とSDGsとのつながりを知り、「持続可能な世界を⑧キズくためには、何をしたらいいのか。また、⑨シヨウライ自分はどういう目標達成に貢献できるだろうか。」を考えることが、2030年の世界で主役となって活躍している君たちに⑩課せられたミッションである。

『私たちがつくる持続可能な世界〜SDGsをナビにして〜』外務省・日本ユニセフ協会パンフレットより)

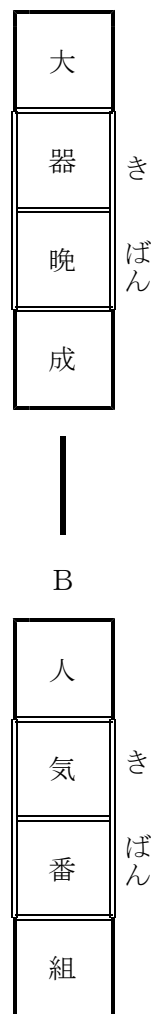
問一 ― 部 ①〜⑩について、カタカナを漢字に改め、漢字はその読み方を答えなさい。

B ことわざ・慣用句に関する問題

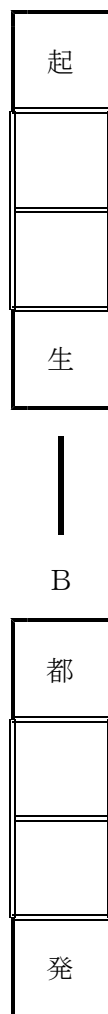
問二 A・Bそれぞれの中央にある二つのマスの中には、同じ読み方の異なる漢字が入ります。

語群ごぐんの中の漢字を使って、四字熟語を完成させなさい。なお、語群の漢字は一度しか使えません。

例



①



②



語群	
動	一
誤	四
市	千
語	大
転	界
会	開
変	出
護	私
回	道
守	後
生	死

問三 ― 部の慣用句の使い方が正しいものには○を、間違っているものには×を、解答欄に書きなさい。

- ① 休日は気の置けない友人たちと集まって、山登りに行くことが多い。
- ② 「今年度の生徒会長になった青木です。一年生の私には役不足なところもありますが、精一杯がんばります。」
- ③ 友だちから夏休みの宿題を写させて欲しいとお願いされたが、情けは人のためならずと思って、断った。
- ④ 彼は会議中の的を射た発言が評価されて、次のプロジェクトのリーダーになった。
- ⑤ このイベントは大人と子どもの絆を高めることをねらいとして、三年前から始まった。

C 文法・言葉遣いに関する問題

問四 次のア～エの中から、言葉の使い方が適切でないものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア. 母は苦い食べ物が好きです。
イ. 黒板に書かれた文字を消す。
ウ. 海外の遊園地に行ってみたい。
エ. 祖父母は大阪に住んでいます。
- ② ア. わたしにはとうていできそうにない仕事だ。
イ. 昨日観に行った映画は、まったくおもしろかった。
ウ. 明日もし雨がふったら、遠足は中止します。
エ. おそらく次のバスは遅れて来るでしょう。
- ③ ア. わたしが言いたいののは、あいさつはとても大切です。
イ. わたしが言いたいののは、あいさつはとても大切だということです。
ウ. わたしは、あいさつがとても大切だと思っています。
エ. わたしは、あいさつがとても大切だということを言いたいのです。

- ④ ア. 会長、どうぞおめし上がりください。
イ. 橋本様のお話を楽しみにしています。
ウ. 美術の先生が展示会で絵をご覧になる。
エ. たくさんのお客様がいらつしやられた。
- ⑤ ア. 暑中お見舞い申し上げます。
イ. 先輩から差し入れをいただきました。
ウ. 校長先生が教室にまいられました。
エ. わたしがこのことについてご説明します。

問題は以上です